

問 認知症サポーター養成講座の講師役をキャラバン・メイトというが、講座を受講し修了された認知症サポーター数は。

答 認知症サポーターは11月末現在で4,350名、キャラバン・メイトは42名いる。

問 多くの方がサポーターになっっているが、サポーターが活動しやすいようなバックアップや、認知症の方々やご家族のサポートを共にすれば、もっと住みやすいまちになるのでは。

答 サポーターは、各地区を網羅できる数があり、認知症に関する講座や養成だけでなく、家族の同意が得られれば徘徊情報を共有し、発見率を上げることなども考えたい。サポーターとの協働も含め積極的に検討したい。

問 本市独自の認知症対策には、どういったものがあるのか。また、今後の取り組みは。

答 10月に運動公園で開催したロゲイニングとコラボし、認知症啓発イベントのランニングトゥモローに参加した。今後参加したい。また、認知症初期集中支援チームの設立に取りかかっており、早期

発見等により軽度のうちに対応し、住みなれた地域で暮らしていきけるよう努めている。今年度から徘徊SOSネットワーク会議を立ち上げており、捜索などの関係づくりも検討している。

檀原市の魅力

問 文化庁は4月に、全国各地の有形・無形の文化財や地域・テーマごとにまとめた18件を「日本遺産」に認定した。本市、明日香村、高取町の「日本国創成のとき―飛鳥を翔た女性たち―」も日本遺産に認定され、本市のすばらしさを再認識したが、これら以外にも本市には多くの魅力がある。魅力を生かすために実施している事業は。

答 春の神武祭と10月の夢の森フェスティバルにはいずれも約8万人以上が来られ、檀原神宮で実施した「ムジークフェストなら2015万葉浪漫」には1日だけで5,200人の来客があった。今年度は八木町や今井町の古い町並みの魅力を発信する「町屋の集い」や「旅籠の集い」も実

施している。全国周知として全国誌への広告掲載や、新宿・横浜駅でのポスター掲示等を行っている。日本遺産等を知っていただくため「飛鳥檀原シンポジウム」を開催し、広域の魅力発信も行う。また、国の地方創生の交付金を活用し、「檀原プレミアム宿泊プラン」と題し、市内のホテルへの宿泊客に対し最大5千円の補助や、「かしはらお散歩クルーポン」を配り、本市、明日香村、高取町、桜井市、御所市、吉野町の施設や観光名所などの利用を促進している。本市が中心となり、中南和広域観光協議会での一体的な観光PRなど魅力発信事業を数多く行っている。

問 日本遺産に登録されたことをまだ知らない市民もいるが、周知は。

答 ホームページの開設や認定記念のポスターを作成し広く周知を開始し、6月号の広報や自治委員連合会会報で認定紹介記事を掲載した。認定記念として、日本遺産のロゴマークがある年賀状を5千枚作成しており、内外への周知へも期待している。また、10月に檀原考古学研究所で日本

遺産認定記念講演会を開催し、推古・斉明女帝ゆかりの構成文化財をめぐるツアーも実施し、好評も得た。今後も周知の努力をしたい。

問 市民には温度差がある。バレーボールや子育てサロンのお母さんたちが集まる場所、また、老人会など、世代別に集まる場所に向き、市の営業をしてはどうか。

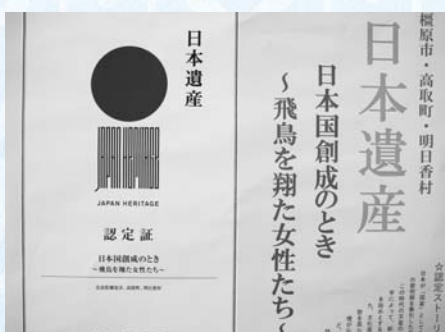
答 市民への周知の機会としてシティフォーラムがあり、平成20年度から10回開催し、これに主眼を置いていた。営業という観点で、出向いての取り組みやシティフォーラムの見直し等を検討したい。

問 本市のすばらしさを市民と共有し、同じ温度・思いで一緒に盛り上げ、全国や世界に発信していきたい。どのようにすれば良いと思うか。

答 まさしく本市が目指す方向と考える。それには、様々な選択肢があり、取り組みを考えていきたい。

問 他市他県にない本市の魅力や強み、本市のすばらしさを市民に知ってもらうために、どのようなことに取り組もうと考えているのか。市長の決意や思いを聞きたい。

答 日本遺産に登録されたことにより、国から3年間で5千万円いただくわけだが、魅力あるものを発信できるようなグッズや冊子もつくる予定である。自分の地域のことが好きかどうかで、おもてなしの心が変わってくると思う。だからこそ、市民を巻き込み共に啓発することが最も大事だと思う。まずは我々の地域の歴史をしっかりと子どもたちに伝えていくことを総合教育会議で話し合っている。子どもたちが成長し、地域の魅力を内外に発信できれば、本当の意味での我々の宝物といえるのではと考えている。しっかりと煮詰めていき、発信の仕方も含め魅力を益々光らせるように頑張りたい。



日本遺産登録 ポスター